磐梯山の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

2022 年末に活発な地震活動が認められて以降、火山性地震の一時的な増加や振幅の小さな火山性微動が時折みられますが、火山活動は概ね静穏に経過しています。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１～２、図３-①）

剣ケ峯監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは 50m以下で経過しました。今期間、噴気活動に特段の変化は見られず低調に経過しました。櫛ヶ峰監視カメラによる観測では、沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図３-②～⑤、図４、図５）

今期間、火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図３-⑥、図６、図８）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

○活動評価

2022 年 11 月以降、火山性地震はやや多い状態で経過し、同年 12 月末には活発な地震活動が認められました。その後も一時的な火山性地震の増加が時折観測されることがあるものの、火山性地震の発生頻度は低下しています。火山性微動も 2026 年５月以降、観測されていません。その他の火山活動にも特段の変化はなく、概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています。



図１　磐梯山　山体北側火口壁の噴気の状況（10 月１日）

・剣ケ峯監視カメラ（山頂の北約７km）の画像です。
・Y-〇は山体北側火口壁の噴気の場所を示す記号です。また、黄色枠は噴気を示します。

噴気の高さは 50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。



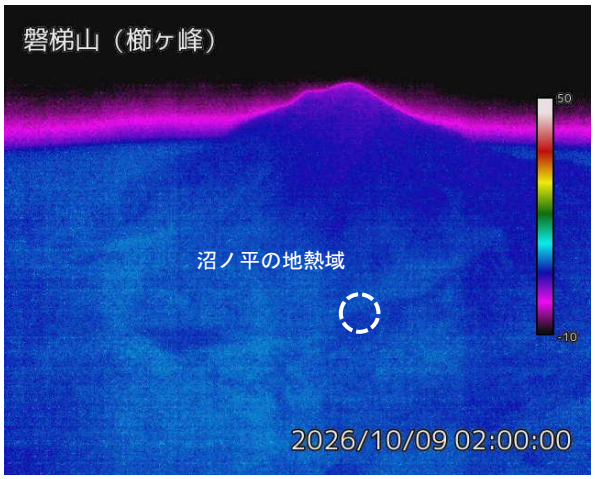


図２　磐梯山　沼ノ平周辺の状況と地表面温度分布（10 月９日）

・櫛ヶ峰監視カメラ（沼ノ平の北東約 600m）の可視及び赤外熱画像です。

噴気は認められませんでした。
沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

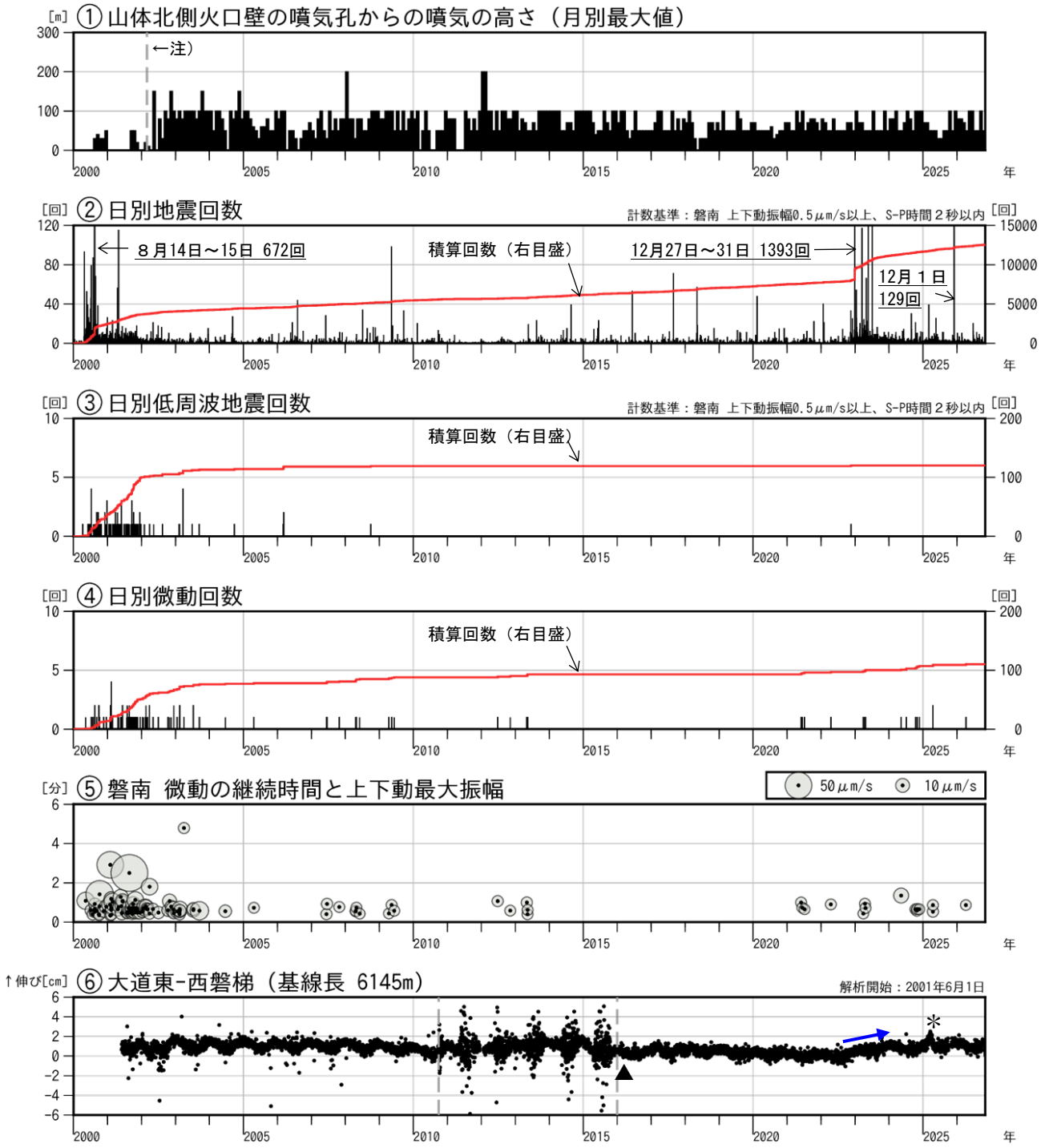


図３　磐梯山　火山活動経過図（2000 年１月～2026 年 10 月）

・⑥は図８の GNSS 基線⑥に対応しています。
・2010 年 10 月及び 2016 年１月に、解析方法を変更しています（⑥）。
注）2002 年２月以前は定時(09 時、15 時)及び随時観測による高さ、2002 年３月以後は 24 時間観測による高さです。
▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました（⑥）。
＊：西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます（⑥）。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。なお、2022 年 12 月末に活発な地震活動がみられた後も、火山性地震はやや多い状態で経過し、2025 年 12 月１日に 129 回を観測する等、一時的な増加も観測されていますが、発生頻度は低下しています（②）。

2026 年４月に振幅が小さく継続時間も短い火山性微動が１回観測されましたが、それ以降、火山性微動は観測されていません（⑤）。

GNSS 連続観測では、2022 年後半から 2023 年 10 月頃にかけて山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められましたが（青矢印）、その後火山活動によると考えられる変化は認められません。

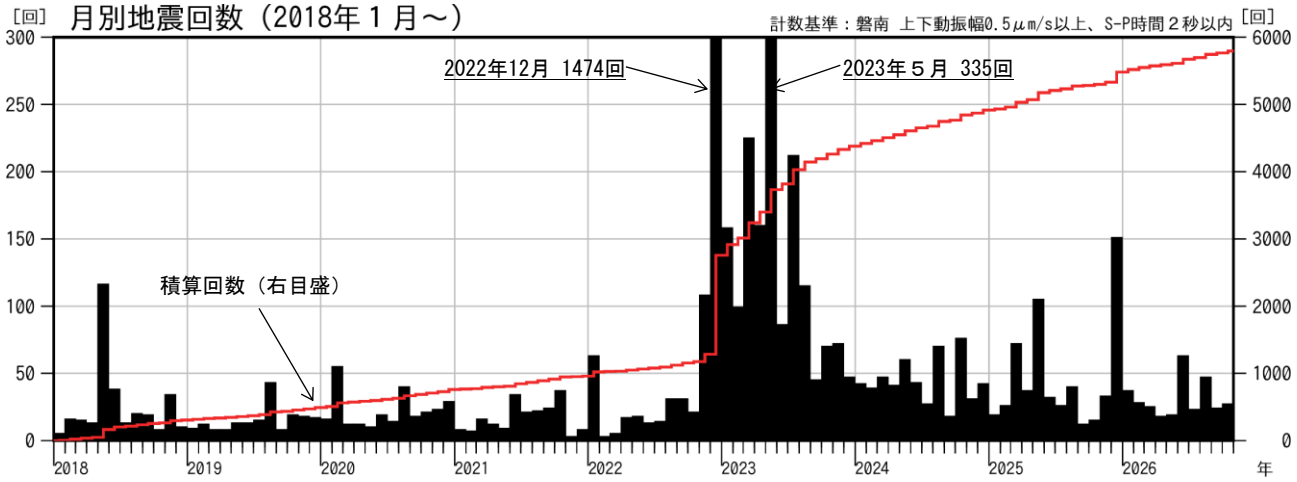
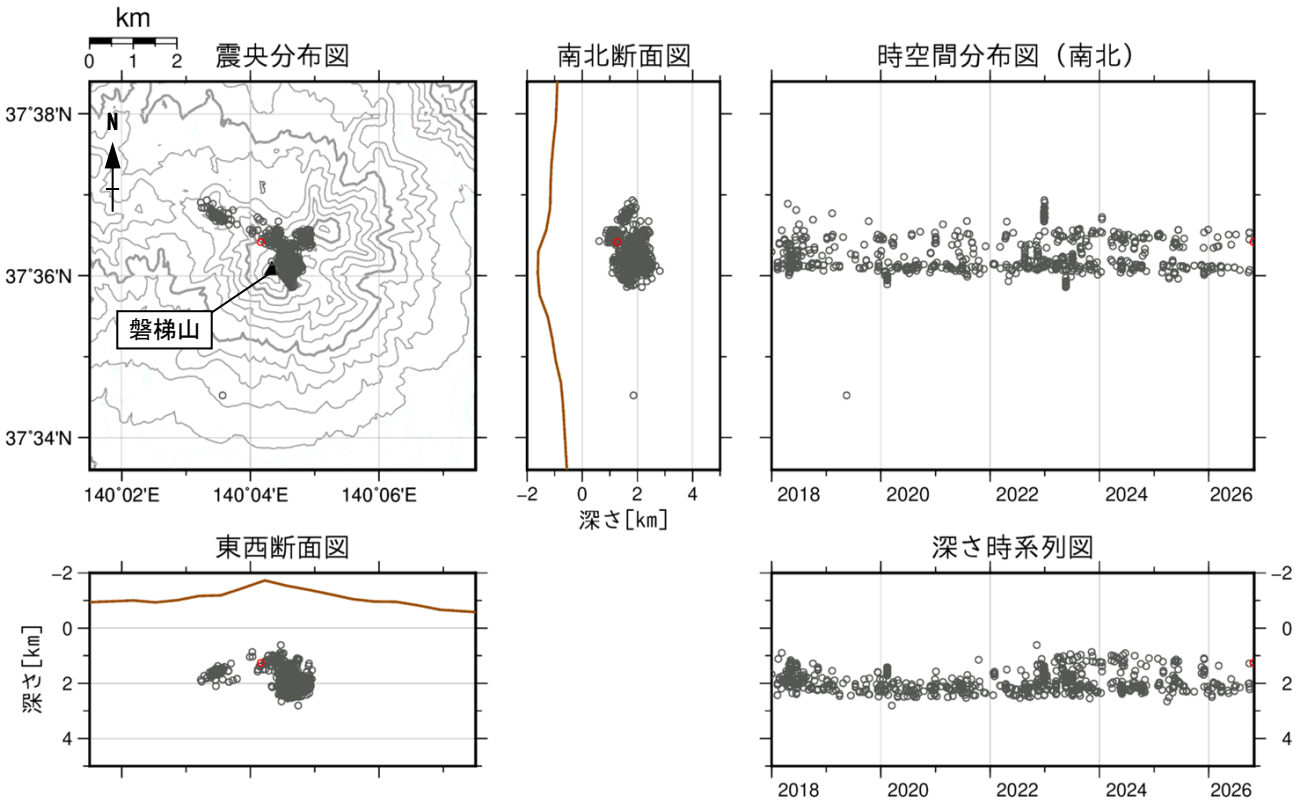


図４　磐梯山　地震回数（2018 年１月～2026 年 10 月）

2022 年 12 月末に活発な地震活動がみられた後も、火山性地震はやや多い状態で経過し、一時的な増加も時折観測されていますが、発生頻度は低下しています。



○：2026 年 10 月１日～10 月 31 日　○：2018 年１月１日～2026 年９月 30 日

図５　磐梯山　震源分布図（2018 年１月～2026 年 10 月）

今期間、震源が求まった火山性地震は、山頂付近の深さ約２km の領域に分布しました。

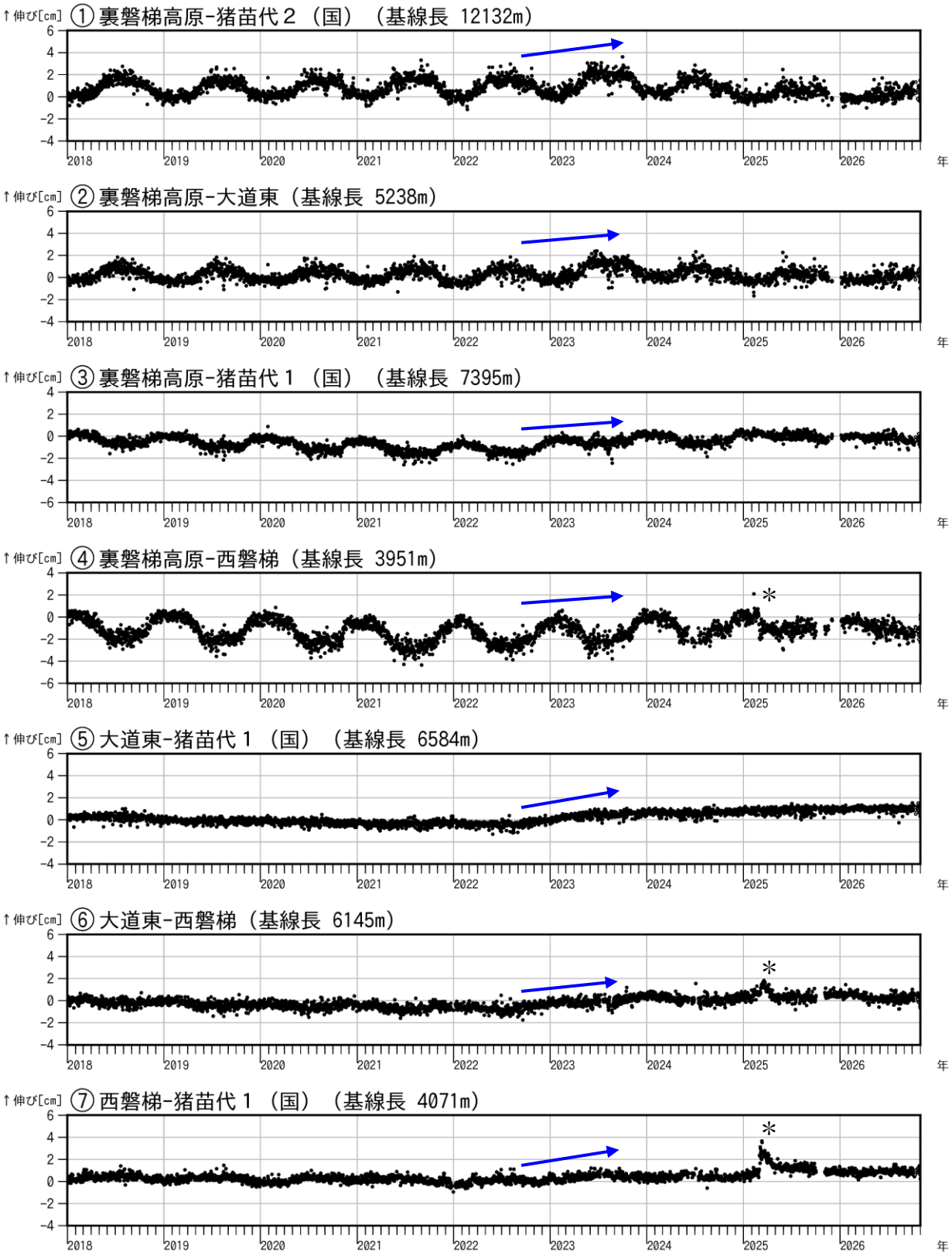


図６　磐梯山　GNSS 基線長変化図（2018 年１月～2026 年 10 月）

・①～⑦は図８の GNSS 基線①～⑦に対応しています。
・空白部分は欠測を表しています。
・（国）は国土地理院の観測点を示します。
＊：西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

GNSS 連続観測では、2022 年後半から 2023 年 10 月頃にかけて山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められましたが（青矢印）、その後火山活動によると考えられる変化は認められません。

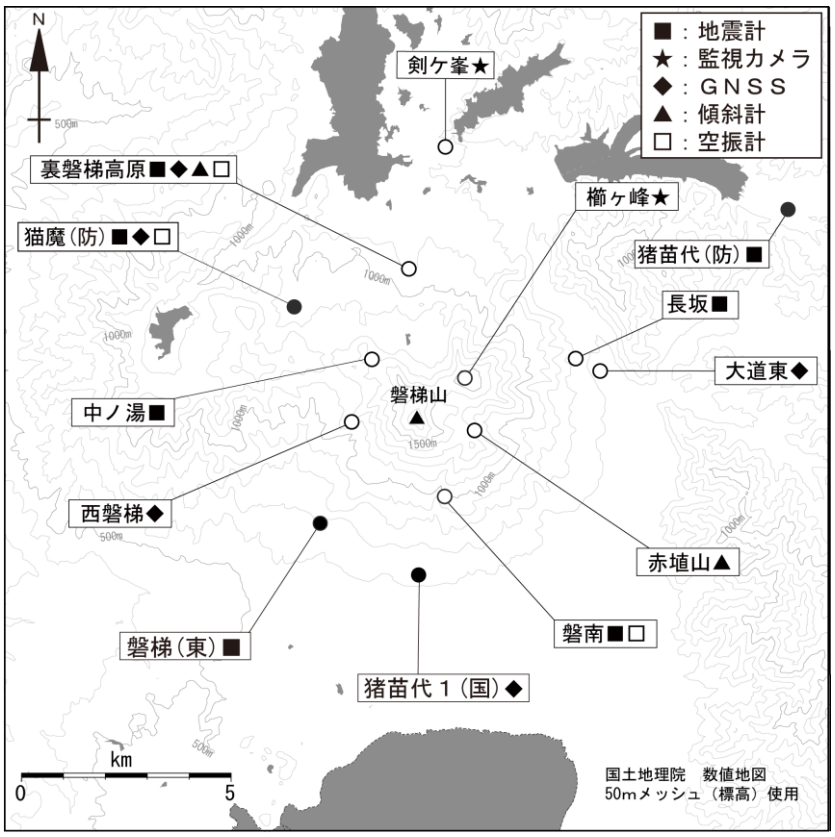


図７　磐梯山　観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院　（東）：東北大学　（防）：防災科学技術研究所

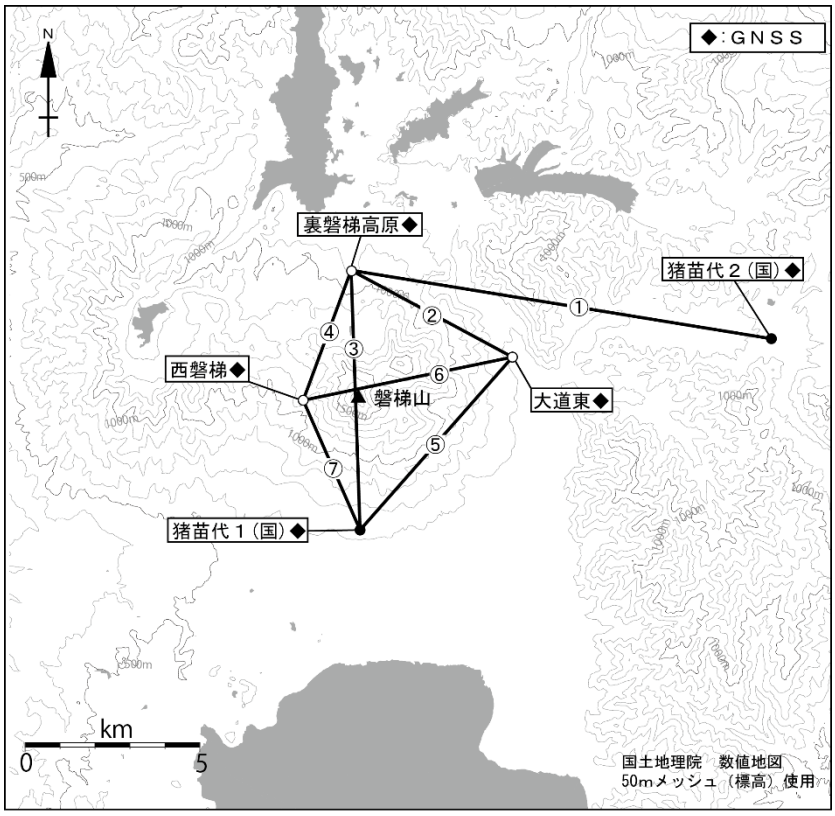


図８　磐梯山　GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院